

1 2 文化プログラムの展開

1 概要

様々な主体が連携・参加できる、これまでにない先駆的な文化プログラム*を展開し、東京の多彩な芸術文化の魅力を国内外に発信する。

また、芸術文化資源の集積や地域の個性を生かし、各地域の自治体や民間団体などと連携したまちづくりを都内各地で展開するとともに、都立文化施設のサービスの向上や、美術館・博物館における連携した取組を推進する。

さらに、あらゆる人々が東京を舞台に創造的な芸術文化活動を展開できるよう支援する。

2 レガシーの概要

東京 2020 大会に向けて、都内各地で多彩な文化プログラムを展開することにより、大会が文化の祭典としても成功する。

また、東京の芸術文化の魅力を世界に発信して様々な人々に理解してもらうことで、世界をリードする芸術文化都市東京が実現する。

さらに、大会を契機に、世界中からアーティストが東京に訪れ、国籍や老若男女、障害の有無を問わず、あらゆる人々が共に芸術文化を創造し、日常的にアートに触れ合うなど、文化の魅力であふれる都市となる。

利害関係者	東京 2020 組織委員会、国、自治体、企業、教育機関、芸術家、芸術文化団体 等
種別	文化・教育
地理的範囲	日本各地
期間	長期
実施主体	東京都
根拠	立候補ファイル、2020 年に向けた実行プラン、「未来の東京」戦略
関連する SDGs	3-保健、9-インフラ、産業化、イノベーション、10-不平等、17-実施手段

3 詳細な説明

(1) 背景

都は東京 2020 大会招致決定前から、東京文化発信プロジェクトの展開やアーツカウンシル東京*の設置等を通じて、幅広い芸術文化活動の支援や人

材の育成等、積極的な事業展開を図ってきた。

東京 2020 大会の文化プログラムは、都民や芸術家たちに開かれたものとし、最高のプログラムを目指す必要がある。

また、東京が芸術文化の面でも世界をリードする大都市となるよう、文化的ポテンシャルの高い地域における魅力の発掘や発信力の向上を更に進める必要がある。

(2) 時期

2008 年度	東京文化発信プロジェクト事業を開始 ※2016 年大会招致に当たり、東京に集積する人材・施設等の文化資源を最大限に活用しながら、芸術団体やアートNPO等と協力して、幅広い分野の文化事業を展開
2014 年度	「東京文化ビジョン」策定 ※東京 2020 大会の開催やその先を見据えた、今後の芸術文化振興における基本指針
2015 年度	「都が主導する文化プログラムの基本方針」決定
2016 年度	2020 年に向けた東京文化プログラム事業の本格実施
2017 年度	「東京文化プログラム」を「Tokyo Tokyo FESTIVAL*」として展開開始
2019 年度	「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」を展開
2020 年度	「アートにエールを！東京プロジェクト」を実施

(3) 実施主体

東京都

(4) 実施方法

① 多彩な文化プログラムの展開



[1] 「未来の東京」戦略（東京都）

- これまで「東京文化プログラム」として実施していた各事業を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL」としてプロモーションを展開し、国内外への発信力と拡散力を強化する。
- 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核を彩る事業として、斬新で独創的な企画を選定した「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」を実施する。
- 大会期間を中心に、都立文化施設等を活用した大会を盛り上げる取組を展開するとともに、大会関係者向けの伝統文化体験機会を提供することで、多くの人々に東京の文化的魅力を発信する。
- 伝統芸能や演劇、音楽など様々な分野の芸術家が一堂に集結する「東京キャラバン」を、日本各地において展開する。
- 多摩や島しょを含む東京と全国各地が連携し、文化プログラムを展開することでオールジャパンとしての魅力を向上させる。
- 日本各地の劇場と連携して展開する国際的なオペラプロジェクト「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World」を実施する。
- 赤ちゃんから大人まで誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる音楽祭として、サラダ音楽祭を実施し、都内の幅広い地域での展開を通じて、より多くの都民に音楽に親しむ機会を提供するとともに、AIを活用したバーチャル指揮体験など、体験性を高めたプログラムを展開する。
- 東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型の総合芸術祭である「東京芸術祭」において、多彩な舞台芸術企画を展開する。
- 六本木のまちを舞台に多様な作品を点在させ、非日常的な体験を創出するアートの饗宴「六本木アートナイト」を開催する。
- 障害等違いを超えた多様な人々との出会いによる相互作用を表現として生み出す「TURN」など、障害者をはじめ多様な人々が参加できる事業を、都内各地の福祉施設等と連携して展開する。
- 海外からの観光客が集まる浅草文化観光センター等の観光拠点において、日本の伝統文化・芸能を短時間で気軽に体験できるプログラムを実施した。
- まちなかななどでアートに触れる機会を創出するため、NPOや地域の商店街、企業、大学等の多様な団体との連携によりアーティストと市民が協働するアートプロジェクトを展開する。また、多摩地域においてアートプロジェクトを通じた広域のネットワーク形成を推進する。

- 都立文化施設で、各館の特性を生かした参加・体験型のイベントを「アート・カルチャー体験 100」として開催する。
- 東京を舞台とした創造的な芸術文化活動や、多くの人々が気軽に参加できる芸術文化イベントの開催などを支援する。
- 都内の庭園において、都と国や区市・民間等が連携したイベントを開催する。

② 芸術文化の担い手を支援

- 新型コロナ感染拡大防止のため活動自粛を余儀なくされたアーティストや団体等を対象に、文化の灯を絶やさないための緊急対策として、アーティスト等個人が制作した動画作品の配信や、団体が劇場ホールなどで開催し配信する講演を支援した（アートにエールを！東京プロジェクト）。
- コロナ禍で落ち込んだ芸術文化活動への支援を強化するため、「アートにエールを！東京プロジェクト」のレガシーとして、「スタートアップ助成」を立ち上げるなど、新人アーティストの創作活動の支援や活躍の場の提供、人材育成まで、パッケージで支援する。
- 海外での活動に意欲を持つ現代美術の分野で活躍する中堅アーティストを対象として、「Tokyo Contemporary Art Award」を実施し、受賞者を継続的に支援する。
- コロナ禍で落ち込んだ芸術文化活動への支援を強化するため、「アートにエールを！東京プロジェクト」のレガシーを生かし、これまでの助成事業を再構築し、「Tokyo Arts Fund」として拡充する。
- 新進の若手アーティスト等を中心に多様な人材を国内外から発掘・育成するとともに、新たな芸術文化の創造の機会を提供する。

③ 東京の芸術文化の魅力を世界に発信

- 上野や池袋、六本木などの各地域の芸術文化資源や集客資源の特性を生かした事業を推進するとともに、地域の芸術文化資源の発信を支援する。
- 多摩地域における地域の芸術文化資源を活用した伝統文化・芸能を発信するフェスティバルを開催するほか、郷土芸能を発信する民間の取組を支援する。
- 隅田川に架かる著名橋や旧三河島汚水処分場唧筒（ポンプ）場施設をはじめとする歴史的建造物を、東京の近代化を支えた貴重な文化遺産として保全する。

- 都用地を活用した「都市再生ステップアップ・プロジェクト*」により、渋谷地区（宮下町）において、世界に向けた生活文化やファッション産業などの発信拠点を形成する。
- 北青山三丁目地区において、老朽化した都営住宅である青山北町アパートを建て替え、高層・集約化し、質の高い民間開発を誘導しながら青山通り沿道との一体的なまちづくりを進め、にぎわい、文化、緑をつなぐ、最先端の文化・流行の発信拠点を形成する。
- メディアアート等、日本が誇る先端技術と芸術文化の融合を図る作品制作に対する支援を行い、これまでにない東京発の独自コンテンツを創造・発信する。
- 海外の美術館や芸術団体と連携し、美術展や舞台芸術などの国際的事業を積極的に展開する。
- パリ東京文化タンデム 2018*
における「FUROSHIKI PARIS」に
続き、2019年は都内でも日仏ア
ーティストがデザインした風呂敷
敷を紹介する「FUROSHIKI
TOKYO」を実施し、大会期間を中
心に、風呂敷を通じ、日本の伝
統や芸術、環境の知恵を発信し
た。
- 海外メディアや観光雑誌、著名なブロガーなどのインフルエンサーとの連携により東京の文化的魅力を発信する。

<パリ東京文化タンデム 2018> [2]



④ あらゆる人が芸術文化に触れることができる環境の整備

- 新たにオープンした東京都渋谷公園通りギャラリーにおいてアール・ブリュット*等の展覧会や、来場者がアーティスト等と関わり交じり合う交流プログラムを実施展開する。また、都内各地でも展示等を実施する。
- 子供や高齢者、障害者、外国人等に対し、芸術文化を活用した取組を行うNPO等の活動を支援する。
- ダンスや演劇、音楽などのプロのアーティストを学校等に派遣し、ワークショップを行うことにより子供たちの創造性や自主性を育む。

<東京都渋谷公園通りギャラリー外観> [3]



[2] 「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019年度）～2020年に向けた実行プラン～（東京都）

[3] 「東京都渋谷公園通りギャラリー」ホームページ <https://inclusion-art.jp/>

- 次世代を担う子供たちに向けて、「創造性」と「参加性」を重視した音楽教育プログラムを展開する。
- バリアフリー化や多言語対応、開館時間延長をはじめとする来館者サービスの向上を図る。
- 都立文化施設の利便性を向上するため、ユニークベニュー*としての活用の推進や、クレジットカードや非接触型電子マネーへの対応、QRコード決済の導入などを実施する。
- 文化施設に来場困難な方を含め、国籍や障害の有無、年齢等に関わらず、誰もが、いつでも、どこでも芸術文化を楽しめるようにするため、最先端技術等を活用し、都立文化施設の収蔵品のデジタルデータ化やオンラインによる鑑賞体験機会の提供等を実施する。
- 都の文化政策の推進の核となる文化施設について、時代のニーズに即した機能更新に向けた大規模改修を行う。
- 一都三県の美術館・博物館などで連携し、広域共通パスなどにより周遊性の向上や受入環境の整備を行う。
- 国内外の劇場等と連携し、作品の共同制作や巡回公演を実施するなど、都立文化施設の発信力を一層高める。
- 新型コロナの感染拡大防止対策として、都立文化施設において、入口での検温や来館者の密を避けるための誘導、ドアノブや手すり等の清掃・消毒等の取組を実施する。

(5) 便益

以下の成果等により、芸術文化拠点の魅力が向上し、世界に発信されるとともに、あらゆる人が芸術文化に触れることができる環境が整備される。

- Tokyo Tokyo FESTIVAL を展開し、東京 2020 大会の象徴となるイベントを実施する。
- 多くの区市町村で文化プログラムが実施される。
- 上野、池袋、六本木等で、芸術文化拠点の魅力が向上する。
- アール・ブリュット等の普及推進を図る拠点の運営を開始し、展示等を実施する。
- 多くの都立文化施設で多言語対応が完了する。
- 多くの都立文化施設で開館時間の延長を行う。
- 文化施設の広域共通パスを導入する。

4 事実と数字

<p>Tokyo Tokyo FESTIVAL の展開 (東京文化プログラムの展開)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトコピー・ステートメントを作成し、ブランディングを推進 ・「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核を担う事業を創出するため企画公募により 13 企画を採択 (Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13) ・象徴となるイベントを含め、各種事業を全区市町村で実施
<p>芸術文化拠点の魅力向上</p>	<p>上野、池袋、六本木等 5 か所以上で実施</p>
<p>アール・ブリュット等の普及推進</p>	<p>渋谷で拠点運営を開始し、展示等を実施</p>
<p>都立文化施設の多言語対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語については全 7 施設で対応済み ・ガイドを踏まえ、各館で対応を拡充。施設紹介ガイドブック(日英中韓)を大幅改訂。
<p>都立文化施設の開館時間延長</p>	<p>全 7 施設で実施</p>
<p>文化施設の広域共通パスの導入</p>	<p>“東京・ミュージアムぐるっとパス”を発行 ※東京を中心とする美術館・博物館等の入場券・割引券が 1 冊にまとまったお得なチケットブック(2021 年版は 99 施設で使用可能)</p>

(表中、個別に記載のない事項は 2020 年 3 月までの実績)

5 用語説明

<p>文化プログラム</p>	<p>オリンピック・パラリンピック開催時に展開される複数の文化的なイベントから成るプログラム。短くとも選手村の開村期間に開催することがオリンピック憲章に定められている</p>
<p>アーツカウンシル 東京</p>	<p>公益財団法人東京都歴史文化財団にある組織であり、東京の芸術文化の創造・発信を推進し、東京の魅力を高めるための多様な事業を展開している</p>
<p>Tokyo Tokyo FESTIVAL</p>	<p>オリンピック・パラリンピックが開催される都市東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組</p>
<p>都市再生ステップ</p>	<p>民間活力を導入し、地区特性に応じ複数の都有地</p>

アップ・プロジェクト	を一体的に活用するとともに、周辺開発を誘発し、まちづくりを促進する事業
パリ東京文化タンデム 2018	「タンデム」は、パリ市が姉妹友好都市と行う文化交流事業。2018 年は東京都及びパリ市の文化施設等において多彩なイベントを実施
アール・ブリュット	フランス語で「生（き）の芸術」の意味。フランスの芸術家ジャン・デュビュッフェにより提唱されたことば。今日では、広く、専門的な美術の教育を受けていない人などによる、独自の発想や表現方法が注目されるアートを表す。
ユニークベニュー	歴史と伝統ある建物や芸術文化に触れることのできる施設などで、会議やイベント、レセプション等を特別感を演出しながら開催できる会場のこと

6 参考文献

- ・2020 年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（PR 版）
- ・2020 年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（本編）
- ・都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020 年に向けた実行プラン～
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（平成 30 年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019 年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2020 年度）
- ・「未来の東京」戦略
- ・東京都文化ビジョン